

「JENESYS2018」アジア国際子ども映画祭 2018 参加訪日団 参加者の感想（抜粋）

○今回の訪日活動中、最も印象に残ったのは北見市と東京での学校交流だ。北見市では専門学校を訪問した。その学生たちは、ある1つの専門技術を学んでいる。ごく一般的な学校訪問だと思って訪れたが、私たちを迎えてくれた学生たちの情熱に深く心を打たれた。幼稚園の教員を育成する学科（オホーツク社会福祉専門学校）での交流では、日本の学生たちから簡単なゲームを教わっただけなのに、彼らの誠実で熱心な態度に感動した。今まであんなに純粋な気持ちでゲームに参加したことはない。彼らの熱意と真心に動かされたと言っていだろう。

○北見情報ビジネス専門学校、オホーツク社会福祉専門学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校を訪問した。訪れた学校はいずれも学生が学ぶ専攻は異なる。視察と交流を通して、日本の学生の熱意と明るさ、学習への集中力、部活動に熱中する気持ちを感じた。また、日本の学生の英語レベルは高く、交流がさらにスムーズにできるようになったと感じた。

環境と施設の面で、私たちが日本の学校から学ぶところが多い。1校の生徒数は中国に比べてかなり少なく、校内のより多くのスペースを体育館や部活動の部室などに使える。中国の学校には日本ほどさまざまな施設がない。中国の学校も現実的な範囲で改善させてほしい。

○今回の活動で印象深かったのは、日本人の仕事や学業に打ち込む精神だ。この勤勉さは、責任を持って仕事を全うすることに限ったものではなく、仕事に向き合う熱意や、彼らが注ぎ込む思いの上に表れている。例を挙げると、阿寒湖のポッケ自然探勝路ガイドツアーだ。ガイドさんは自分の知識を伝えることと趣味を結びつけて、大きな情熱をもって私たちと交流してくれた。解説を補足する面白い道具をいろいろ作ったりして、仕事を本当に愛していることが分かった。アイヌコタンでは、どの民芸品店もオーナー自身が職人で、彼らが創作技術に向き合う気持ちは、とても貴重なものだった。

○日本が特定の地域の文化のことを、広く宣伝し保護していることを知った。規模は異なるが、日本各地に博物館があり、国内の別の地域や海外から来た観光客へのPR方法にもそれぞれ文化的特色がある。

例えば、網走地区にはまだ200年くらいの歴史しかないが、現地の博物館は、この200年の変遷を詳しく紹介しており、私たちはとても明瞭かつ全面的に網走について理解することができた。

現在の中国は、伝統文化の宣伝や保護を完璧には出来ていない。今回の交流を通して、私たちも文化の宣伝や保護をもっと重視すべきだと思った。